

懇親会での挨拶

松島 正一

今から6年前に私が英文科の主任であったときに、今井邦彦、寺門泰彦、武田千枝子の三人の先生方をお送りしたことを、いま思い出しています。今日、お三人がお元気で私の最終講義にいらして下さったこと、とても嬉しく思うと同時に感謝しております。

今日は学長、文学部長にもお忙しいなかを私の懇親会に御出席いただき、スピーチまでしていただき恐縮しております。学長には拙い最終講義まで聴いていただき、心から感謝いたします。先程、学長がご挨拶のなかで、私的なことですがおっしゃって、姉上の郁子さんと義兄の水之江有一君のことに触れになりました。福井学長とは水之江夫妻の結婚式以来の知り合いですので、もう40年以上になります。水之江君とぼくは大学の同級生で長い付き合いでしたが、残念なことに彼は58歳で亡くなってしまいました。

今日は佐藤豊君と岡田聡宏君の二人の教え子からもスピーチをいただきました。自分が教え子からどのように見られていたかがわかって、とても恥かしい思いで恐縮しています。優秀な学者となられたお二人にぼくが学問の厳しさを教えたなど言われると、恐縮してしまいます。ただ、出来る範囲で一生懸命にやっただけです。また、ぼくがイギリス・ロマン派学会会長の時に副会長としてぼくを支えてくれた笠原順路さん（この4月から会長に就任されます）の心温まるスピーチにも感謝します。

ぼくが学習院に来たのは43歳の時でした。その頃は自分が70歳まで生きてこういう日を迎えるなんて、考えてもみませんでした。とにかく大した病気をすることもなく、無事に停年を迎えることができるのも皆さんのおかげだと思っています。

ぼくは学習院に来て、自分が上品になったと思っています。ぼくはフーテンの寅さんで有名になった東京の葛飾・柴又の隣の金町の生まれですから、学習院に来る機会がなければ、一生涯、下品で終わったことでしょう。これは感謝してもし過ぎることはないでしょう。

学習院の英文科は同僚の皆さんがとても仲が良くて、本当にいいところでした。こんな英文科は日本広しと言えど、どこにもないと思います。お互いの学問を尊重することがまず第一にあって、皆んなで協力して一つの組織を盛り上げる、これが英文科の良いところだと思います。今後もこの良き伝統を続けていただきたいと思います。

今日は現在の教え子、かつての教え子、学習院に非常勤で教えに来ていただいた方々、イギリス・ロマン派学会の方々、それに大学の茶道部時代の友人まで、いろいろな方に来ていただきました。茶道部の旧友は高級官僚として霞が関や永田町で、また企業戦士として日本のために頑張ってくださいました方々で、こういう人たちのおかげで、ぼくなどが役にも立たない文学なんかをやってこれたと思うと、申し訳ないと思うと同時に、有り難いことだと思っています。今日の会の準備をしてくださいました英文科の事務室の皆さんにも感謝を申し上げます。本日は本当に有難うございました。

(平成 24 年 1 月 14 日)